

Schleichkorn J (著), 古澤正道, 他 (訳)

伝記 シグネ ブルンストローム

山 本 伸 一

(山梨リハビリテーション病院, 作業療法士)



『伝記 シグネ ブルンストローム』の書評の依頼が届いた。Brunnstrom-stage. 日本のリハビリテーションにおいて、医療関係者であれば誰もが知っている評価法である。その創始者であるシグネの伝記。偉大すぎる雲の上の大先輩である。また、訳者筆頭は古澤正道氏。今から約30年前、私は右も左もわからない駆け出しのOTであり、当時、すでにボバースアプローチの国際インストラクターであった古澤氏の講習会を受講させていただいた。そこで受けた鮮烈な印象は今の自分の臨床財産になっている。その先生が訳者であり、世界的に有名なシグネの伝記の書評を私を受けてよいのだろうか。そう感じたのが第一印象である。しかし、心が躍る。読みはじめると、あっという間であった。そして、アンダーラインを引いている自分に気づいた。

まずは、本伝記をまとめたジェイ・シュライコーン (PhD, PT) のご尽力に感謝したい。なんと100名を超える方々による当時の具体的な情報だけでなく、シグネとのやり取りの手紙等も満載である。時代の状況や環境、そしてシグネのPTとしての素晴らしさや人柄に触れることができる。本伝記を書籍にしたいという著者の強

い思いがうかがえるのではないだろうか。深く深く感謝申し上げる。

シグネは、1898年にスウェーデンで誕生した。のちに理学療法、リハビリテーション分野で大きな貢献を果たすことになる。体育学校を卒業しスイスへ移住。一つの国にとどまらない旅の始まりである。当時の理学療法対象者は、兵隊やポリオが主流であったとのこと。一方、シグネは女子勤労者に対するフィットネスが必要とも考え、実践している。その後、世界への飛躍を遂げた米国へ。第二次世界大戦で従軍したシグネ ブルンストローム大尉は、切断に対する運動療法に携わり、戦後はギリシャでの養成校設立にも尽力している。そして、いわずと知れた脳卒中片麻痺者への「運動療法の確立」である。本書は、講習会の開催やさまざまな書籍の出版、学生教育等に奔走されている様子が手に取るようにわかる。

講習会に参加したバド・ヘイリーさんという受講生 (PT) の感想が私の胸に突き刺さった。治療が難渋している患者に対するデモンストレーションにおいて、複数のPTが達成できなかったことを2~3分で可能にしたことを述べている。もちろん、技術が高いことはわかっている。しかし、バド

さんは、「シグネは患者に『あなたならできる』と語り掛けるような独特の関わり方をしていたということです。患者に活力を与えたのは、彼女の眼の輝きであり、声のトーンでした」と。療法士に必要なこと。しかし誰もができることではない。自分もそうありたいと思う対象者への姿勢である。第7章で表題項目とされている「幾多の試練をこえること (brief encounter)」の精神とともに、彼女こそ「強さと優しさをもった理学療法士としての女神」だと感じられるのは私だけではないはずだ。「訳者の言葉」の章で古澤氏は、「シグネの「患者ファースト」とも言える献身的な精神」と表現している。

長い闘病生活の後、1988年にシグネは90歳で逝去された。世界に多大な影響を与えた「理学療法士・シグネ ブルンストローム」。彼女の人生だけでなく、理学療法や作業療法、リハビリテーション、医学の歴史をみるができる書籍である。心を込めてお薦めしたい。

A5判 270頁 2,200円+税
シービーアール刊
☎ 03-5840-7561